

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red

Cross Kyushu International College of

Nursing

ブログでの語り方とマイクロレクチャー：
ナラティブ・物語的な問題提起

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-01 キーワード (Ja): キーワード (En): narrative, raising a question, qualitative research 作成者: 守山, 正樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/681

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



WB02 ブログでの語り方と マイクロレクチャー：ナラテ ィブ・物語的な問題提起



<https://taiwa-act.blogspot.com/2014/01/wb02.html>

今回はこのブログ（オンライン講座）での語り方を考えます。限られた時間にメッセージを伝える方法としてマイクロレクチャーがあります。この考えが現れたのは 20 世紀の末、McGrew さんは 1993 年に「一回の有機化学の授業を 1 分間で行う方法」という論文を書きました。この発想は、2006 年にサルマン・カーンさんが設立した、ネットを通して高水準の教育を、無償で、誰でもどこでも受けられるようにするカーンアカデミーでも活用され、多くのマイクロレクチャーシリーズが作成されています。

さて、大学での授業、通常は 90 分の時間をかけ、講義室でパワーポイントのスライドを用いて行うのが一般的です。90 分授業でスライドは 60 枚。では授業時間を 30 分の 1、3 分に減らすとすれば、スライドは 2 枚となります。少数のスライドに、要点を詰め込めば、形式的にはマイクロレクチャーが可能です。

しかし時間と情報量を 30 分の一まで減らしても、詰め込むだけなら、分りやすさや面白さは期待できないかもしれません。San Juan College でマイクロレクチャーを開発している David Penrose さんは、1 分間のレクチャーをデザインする 5 ステップを提案しています。前半は情報伝達が中心になるにしても、1 分間の最後には、宿題を出すことも大切だと述べています。

今回の実験では、私はブログ 1 回の長さは 3 分から 5 分と短くする一方で、情報の詰め込みは最小限とし、その代わりに、ナラティブな、物語的な、語りかけや問題提起を行うことにします。質的研究 Qualitative research でも重要なナラティブは、視聴者を語りの中に、招き入れ、共に考える状況を作り出す効果を持ちます。しかし効率重視では無いため、時間は必要です。本当に数分で意味のある問題提起を行えるでしょうか。難しい難しい課題ですが、試みていきます。

(守山正樹)